



の活動を川のながれにたとえると...

アートと多様なひと・テーマを結び、地域をうるおす

1

応募

家や学校、職場とは違う、第三の場である美術館。
さまざまな関心、背景をもつ多様な人々との出会いが源泉!



自分の発言が肯定的に
受け止めてもらえた

3

実践ゼミ(9月~不定期)

多様な来館者に寄り添うアートコミュニケーターの在り方を考え実践するゼミです。
美術館の活動で大切なことや、アートと人、社会との関わり方をテーマに、学びを深めます。

- **作品鑑賞と「~ながラー」**
鑑賞手法やファシリテーターの技術を学び、鑑賞を軸に多様な来館者に寄り添うために自分たちができることを考えました。
- **アクセスと「~ながラー」**
多様な背景をもつ来館者に寄り添い、美術館を楽しんでもらうためにどのような意識をもって存在すればよいか考えました。
- **地域資源と「~ながラー」**
岐阜県を中心に展開されるアートプロジェクトや人々のつながりを通して、「地域資源」について実践を交えながら考えました。



作品鑑賞と「~ながラー」



アクセスと「~ながラー」



得意分野で
できることをもちより、
形にしていながら
活動しているよ



2

基礎ゼミ(4~7月、全7回)

※日程および開講回数に変更する場合があります

対話のあるコミュニティづくりについて学ぶゼミです。
アートコミュニケーターの活動について、基礎的な考え方を仲間たちと共有します。

- たとえば、「こんな活動!」
- **ミュージアムの特性を活かした活動とは?**
アートコミュニケーターの社会的役割について学ぶ
 - **きく力**
「~ながラー」のコミュニケーションの基本となる「きく」ことについて学ぶ
 - **会議が変われば社会が変わる**
「~ながラー」の活動に欠かせない、ミーティングの理想的なスタイルや具体的な手法を学ぶ



ミュージアムの特性を活かした活動とは?



きく力



会議が変われば社会が変わる

4

この舟のろう方式

一つのアイディア(=舟)に3人が集まったら、オリジナルの活動に向けて漕ぎだそう。
「~ながラー」の活動の基本は、自主的な話し合いと実践です。ミーティングや試行錯誤を重ね、美術館を舞台にしたオリジナルの企画をつくっていきます。

各チームには、舟をイメージして「~丸」などの愛称をつけます。

- **Ishi丸**
林武史《石間》と《立つ人一月見台》を五感を使って鑑賞するイベントの開催
- **Let's おしゃべり鑑賞丸**
来館者の年齢に合わせた「おしゃべり鑑賞会」の開催
- **こぐまのこぐ丸**
館内で絵本の読み聞かせ+館内ミニツアーを開催
- **明後日朝顔丸**
日比野克彦アートプロジェクト「明後日朝顔」への取り組み方や発信の仕方を試し、他の参加地域と交流しながら、思いを巡らせる。
- **こよみのよぶね丸**
地域のアートプロジェクトに参加し、アートコミュニケーターならではの関わり方を模索する。
- **3年目マイボート**
任期満了を迎える年度に実施する「~ながラー」独自の自主プロジェクト



Ishi丸



Let's おしゃべり鑑賞丸



こぐまのこぐ丸



明後日朝顔丸

5

美術館から、それぞれの活動へ出港!

「~ながラー」の任期は3年間。
任期満了後は次のステップへ! 社会という広い海でそれぞれの創造力を発揮していきます。



イベントで関わった
参加者の笑顔が嬉しい

